

きべ 木辺遺跡現地説明会資料

平成30年12月22日(土)
南あわじ市教育委員会
南あわじ市埋蔵文化財調査事務所

1. はじめに

木辺遺跡が位置する南あわじ市神代国衙～賀集立川瀬地区では、平成27年度より県営圃場整備事業が実施されており、教育委員会では事業実施に伴って本発掘調査を進めてきました。

今回調査を行っている木辺遺跡周辺には長手遺跡(神代国衙)、嫁ヶ淵遺跡(賀集立川瀬)、国衙廃寺跡(神代国衙)などの遺跡が分布しています。長手遺跡では鎌倉・室町時代の建物跡が見つっています。嫁ヶ淵遺跡では奈良時代の大型建物跡が15棟見つかり、郡衙(三原郡の役所)の出先機関と考えられています。国衙廃寺跡では奈良・平安時代の建物跡や遺物を確認しています。さらに大日川を挟んだ西側には石ヶ坪遺跡(賀集八幡北)、大野遺跡(賀集八幡南・立川瀬)、岸ノ上遺跡(八幡南)など河川に隣接して官衙(役所)的な遺跡が立地することが近年の調査で分かりました。特に木辺遺跡は、嫁ヶ淵遺跡と国衙廃寺跡とは年代や距離が近いことから密接な関係があると思われます。

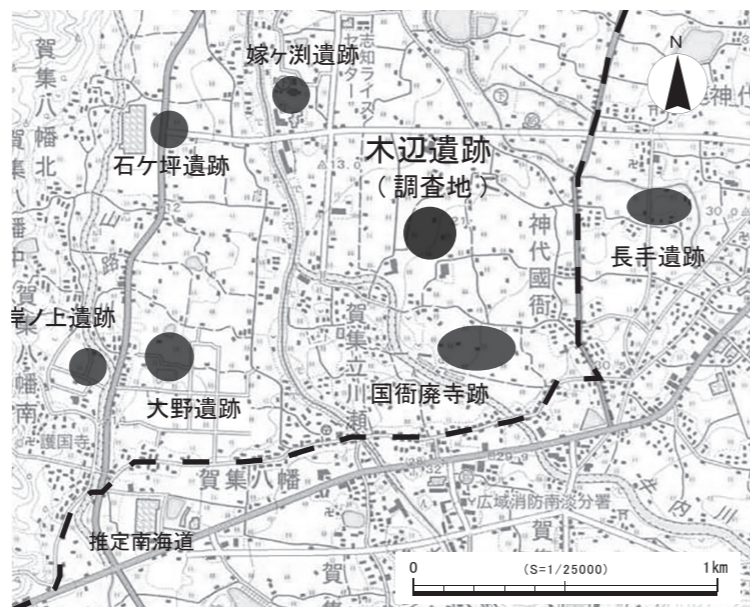


図1 調査地と周辺の遺跡



図2 調査区の位置

2. 調査の成果

調査は、工事により地下の遺跡が破壊される排水路部分を中心に調査区(13～23区)を設定し、5月から約5,700㎡の調査を進めてきました。

調査の結果、13区・20区・21区で弥生時代の竪穴住居14棟以上や方形周溝墓2基、奈良時代の建物群(10棟)などを確認する成果がありました。ここでは、奈良時代の建物群を確認した21区の成果を中心に紹介したいと思います。

【21区】調査地南部に位置する東西方向の排水路部分の調査区です。

調査区東部(4a～5a区)で弥生時代終末期の竪穴住居1、中央部(17a・18a区)で弥生時代中期の竪穴住居2を確認しました。竪穴住居1からは甕などの土器が出土しています。

また調査区中央部(11a～23a区)で奈良時代前半期を中心とする掘立柱建物を7棟あまり確認しました。調査区の幅が狭いため、いずれも全体は不明ですが、建物5・



写真1 21-4a～5a区 竪穴住居1

(北東から)



写真2 21-4a～5a区 竪穴住居1から遺物が出てきた様子(東から)

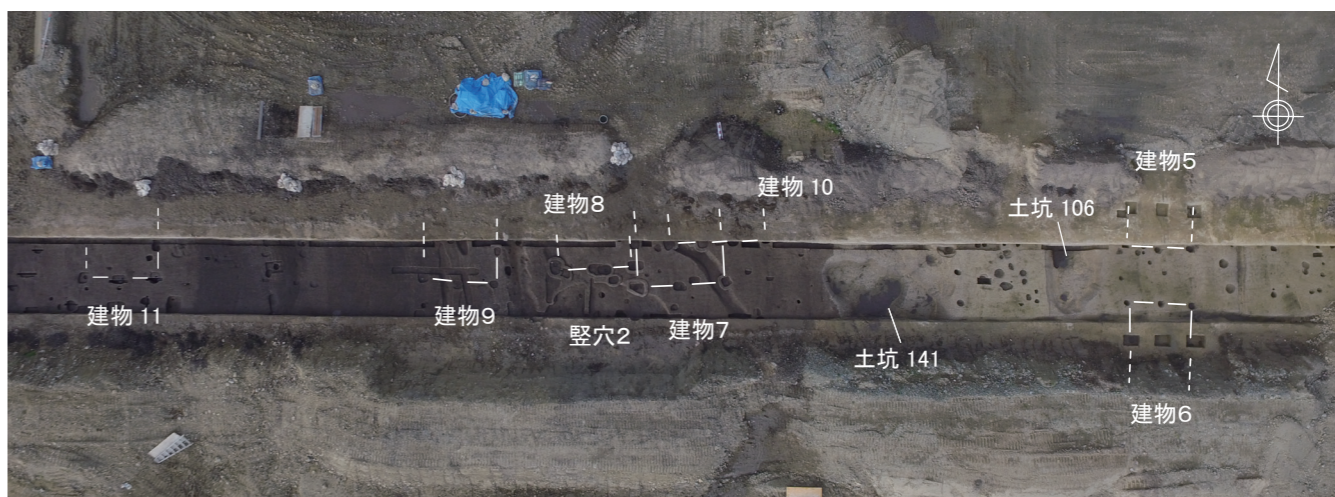


写真3 21-11a～23a区全景(真上から写真は図2の緑範囲)

7・8・9・11は東西2間で北方向にのびる側柱建物がわばしらたてものと思われます。建物8の柱穴は、長辺が約1mあり、他の柱穴よりも大きいことから、建物が2棟重なっている可能性があります。また柱穴には柱が残っているものがありました。建物は重複する部分があることから、何回かの建替えが想定されます。

建物5・6の西(13a区)には幅約3.0m、深さ40cmの土坑どこう106があります。土坑からは、奈良時代前半期の須恵器・土師器・製塩土器などの遺物が非常に多く出土しており、周辺の建物で使用されたものが廃棄されたと思われます。

3. まとめ

今回の調査により、弥生時代の竪穴住居や方形周溝墓、奈良時代前半期を中心とする建物群を確認するなど多くの成果がありました。特に奈良時代前半期の建物群は、昨年度確認した総柱建物の倉庫群そうばしらたてもの(3区南調査区：写真6)とは一定の距離を保ちつつ、南北方向を意識した柱筋を揃える規則的な建物群です。また土坑106から比較的まとまって出土した畿内産きないさん(系)土師器は、都や地方の官衙(役所)で出土することが多く、遺跡の年代や性格を考える上で非常に重要になってくると考えられます。

以上のことから、21区中央部の建物群は、調査面積の関係から具体的な建物配置は不明で確定できませんが、三原郡衙域の建物群と評価でき、近辺に中心となる施設が想定されます。



写真4 21-17a～18a区建物8(南から)



写真5 21-13a区土坑106から遺物が出てきた様子(北東から)



写真6 3区南調査区(H29年度)倉庫群(北西から)

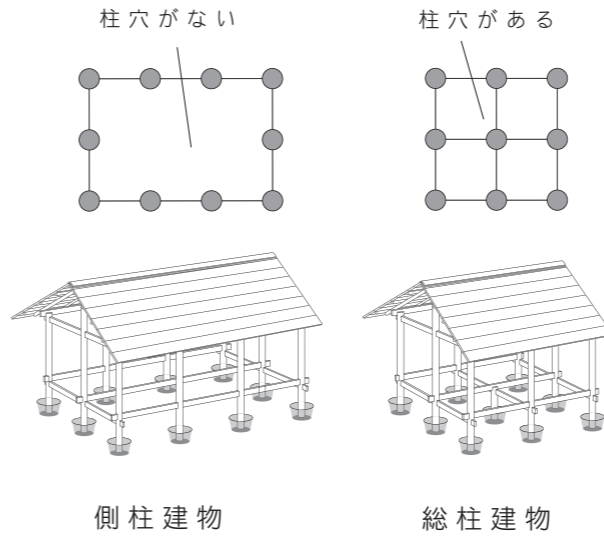


図3 側柱建物と総柱建物



図4 奈良時代の木辺遺跡想像図

れきし年表

時代	主なできごと	市内の主な遺跡
時代石器		
縄文時代	B.C. 11,000年頃 土器作りが始まる	曾根遺跡(北阿万筒井)
	B.C. 6000年頃 米作りが始まる	平石遺跡(淡里) 九歳遺跡(阿万東町)
弥生時代	2世紀後半頃 倭の国大いに乱れる	平石遺跡(淡里) 松帆副跡(松帆)
	239年 邪馬台国の卑弥呼が魏に使者を送る	幡多遺跡(榎列上幡多～下幡多)
古墳時代	3世紀後半頃 古墳が築かれる	木辺遺跡(賀集立川瀬～神代国衙) 幡多遺跡(榎列上幡多～下幡多)
	538年 仏教が日本に伝わる	木戸原遺跡(市新～三條)
飛鳥	607年 法隆寺が造られる	木辺遺跡(賀集立川瀬～神代国衙)
	646年 大化の改新	里丸山古墳群(淡里)
	710年 平城京に都を遷す	汁谷窯跡(神代黒道) 木辺遺跡(賀集立川瀬～神代国衙) 糠ヶ淵遺跡(賀集立川瀬)
奈良時代	750年頃 各国に国分寺・国分尼寺が造られる	国衙廃寺跡(神代国衙) 淡路国分寺跡・淡路国分尼寺跡(八木国分・新庄)
	794年 平安京に都を遷す	平石遺跡(淡里)
平安時代	894年 遣唐使の廃止	井手田遺跡(阿万上町)
	1167年 平清盛が太政大臣となる	平石遺跡(淡里)
鎌倉時代	1185年 源頼朝が鎌倉幕府を開く	
	1274年 蒙古襲来	平石遺跡(淡里)
室町時代	1338年 足利尊氏が室町幕府を開く	長手遺跡(神代国衙)
	1467年 応仁の乱が起こる	淡路安国寺跡(八木大久保) 糞宜館跡(八木糞宜中)
徳川	1576年 織田信長が安土城を築く	上久保遺跡(賀集野田)
	1586年 豊臣秀吉が関白となる	
時江代	1603年 徳川家康が江戸幕府を開く	志知城跡(志知松本) 叶堂城跡(松帆古津路)
		里原田遺跡(淡里)
時明治	1868年 明治維新	
時大正	1914年 第一次世界大戦	琺瑯窯跡(北阿万伊賀野) 行者ヶ嶽窯跡(福良西)

表1 歴史年表

用語の説明

- * 官衙かんのが…奈良・平安時代、日本は60あまりの国に分けられ、国・郡・里くに ぐん り ごと(郷)を単位として統治が行われた。この国・郡・里(郷)のそれぞれに置かれた役所のこと。
- * 掘立柱建物ほったてばしらたてもの…地面に穴を掘って直接柱を据える建物。
- * 側柱建物がわばしらたてもの…建物の外周りだけに柱を持つ構造の建物。
- * 総柱建物そうばしらたてもの…建物の外周りと内部にも柱を持つ構造の建物。
- * 製塩土器せいえんどき…塩作りに使用された土器で、木辺遺跡の南にある国衙廃寺跡からは、底が丸い砲ほう弾の形をした奈良時代の製塩土器がまとまって見ついている。
- * 畿内産きないさん(系)土師器…畿内地域(現在の近畿地方)の都周辺部で作られた土師器で、都や地方の役所での出土が多い。畿内系土師器はそれを模倣もほうして在地ごいち(地元)で作られたと考えられる土師器。